

18歳・19歳の本音 大人として認められたい！ でも成年になることには消極的

消費者のみらいを考える会 「成年年齢引下げ」に関する消費者意識調査を実施

一般社団法人 消費者のみらいを考える会（代表理事 三谷英弘）は、消費者意識調査を通して、多数の一般的な消費者の意見を汲み取り、その価値観の変化に基づいた今後の消費者政策のあり方に関する提言を行っていく新しいタイプの消費者団体です。

政府は民法の成年年齢を現行の20歳から18歳に引き下げる方針を固め、早ければ、改正法案が2017年の国会に提出されるといわれています。一方で、この引き下げにより、若年層の消費者トラブルが増加するという懸念があがっていることから、新たに成年となる者の消費者被害の防止・救済のための対応策が、現在、消費者委員会の「成年年齢引下げ対応検討ワーキング・グループ」で検討されています。

このような成年年齢引き下げに向けた動きに対し、引き下げの対象者（18歳・19歳）はどのように考えているのでしょうか。そこで、消費者のみらいを考える会では、引き下げが実施されると成年とみなされることとなる18歳・19歳の若者を対象にアンケートを実施いたしました。

結果概要

若者の意識と成年年齢引下げに対する理解度

アンケート調査の結果、18歳・19歳の若者たちの多くは、成年のイメージとして、お酒やたばこが解禁になる、選挙権が得られることだと捉えており、6割が「成人」になりたいと思っていることがわかりました。

しかしながら、民法の成年年齢を説明した上で、成年年齢の引き下げの賛否を再び答えてもらったところ、反対と答えた人が4割にのぼりました。また、「議論の内容まで知っている」と答えた人と「内容までは知らない」と答えた人の回答内容を比べてみると、議論の内容まで知っている人ほど、引き下げに反対するという傾向が見られました。しかし、消費者トラブルに遭った経験があると答えた人だけで見てみると、成年年齢引き下げについて議論されていることを知らない、つまり認知がされていないという結果が見られました。

トラブル経験の有無と若者のリスク認識

また、「消費者トラブルに遭った経験がない」と答えた人のうち、「今後トラブルに遭うかもしれない」と

答えた人の割合は 6 割近くを占めていたことから、過去のトラブル経験がなくても将来に対するリスク認識は高いということがわかりました。

若者が求める施策

7 割以上の若者が、消費者トラブルに遭う原因が「知識や情報の不足」であると感じており、消費者トラブルを減らすためには、教育と消費者トラブルに関する情報提供が必要であると回答しました。

成年年齢を引き下げる目的や引き下げるにあたっての施策の推進等、若者の理解を深めるための継続的なアプローチが望まれます。

消費者のみらいを考える会では、この調査を踏まえ、引き下げの対象となる若者への、より効果的な情報提供、継続的な教育について重点的に考えていきます。

■ 調査の概要

実施期間	2016 年 11 月 9 日～2016 年 11 月 16 日
調査対象	18・19 歳の消費者
有効回答数	786 件
調査方法	ウェブアンケート方式（当団体サポーター会員およびジャストシステム社への委託）

■ 「消費者のみらいを考える会」について

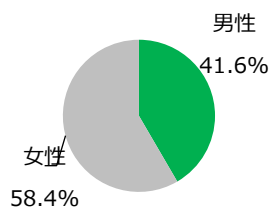
「消費者のみらいを考える会」は、「消費者の声や実態がはたして政策に反映されているのか、豊かな消費社会の実現をともに考えたい」という思いで設立された一般社団法人です。自ら情報を入手し、自己責任にもとづき主体的な判断を行うことができる、「自立した」消費者をはじめとする多様な消費者の声をリサーチや SNS 等を通じて把握し、政府、団体、企業に向けて発信していきます。また、これからを担う自立した消費者の育成支援に取り組んでいきます。これらの活動を通して、消費者の「最大多数の最大幸福」の実現を目指します。

結果詳細

【属性】

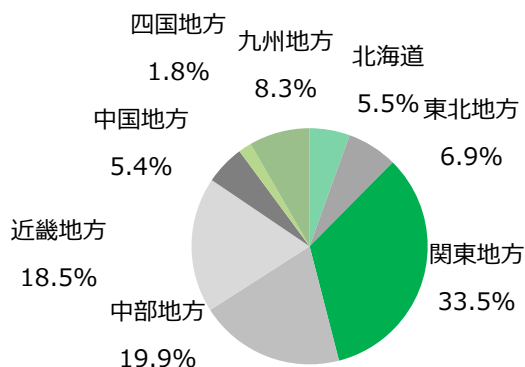
■性別

性別	男性	女性
総数	360	505
(%)	41.6%	58.4%



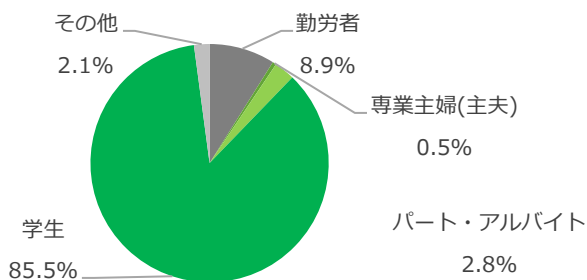
■地域

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
総数	48	60	290	172	160	47	16	72
(%)	5.5%	6.9%	33.5%	19.9%	18.5%	5.4%	1.8%	8.3%



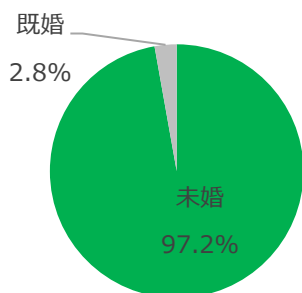
■職業

	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦(主夫)	パート・アルバイト	学生	その他
総数	16	2	16	14	27	3	1	4	24	740	18
(%)	1.8%	0.2%	1.8%	1.6%	3.1%	0.3%	0.1%	0.5%	2.8%	85.5%	2.1%



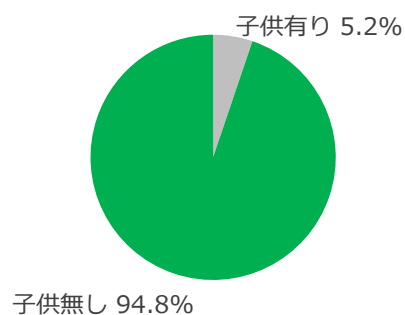
■ 未既婚

	未婚	既婚
総数	841	24
(%)	97.2%	2.8%



■ 子供の有無

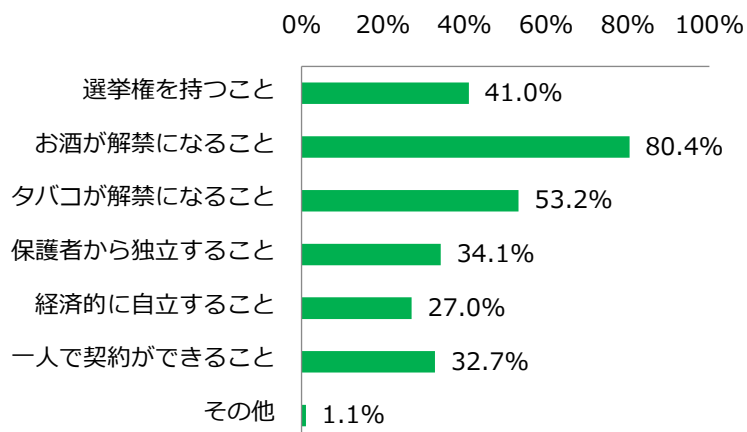
	子供有り	子供無し
総数	45	820
(%)	5.2%	94.8%



【設問】

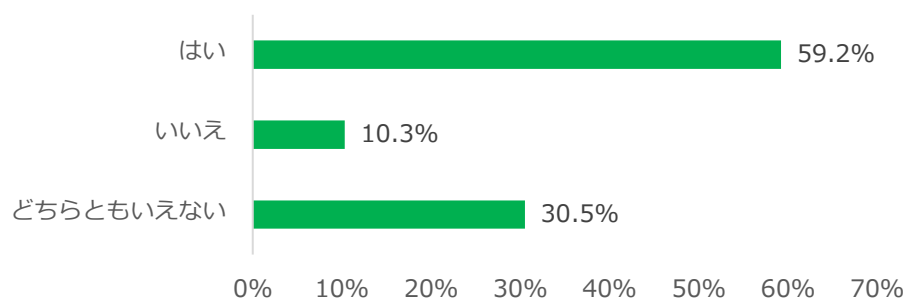
Q1:「成年」と聞いて、あなたは以下のうちどれを思い浮かべますか。該当すると思うものを全て選んでください。

	n	お酒が 解禁に なるこ と	タバコ が解禁 になる こと	選挙権 を持つ こと	保護者 から独 立する こと	一人で 契約が できる こと	経済的 に自立 するこ と	その他
総数	786	632	418	322	268	257	212	9
割合	100.0 %	29.8%	19.7%	15.2%	12.7%	12.1%	10.0%	0.4%



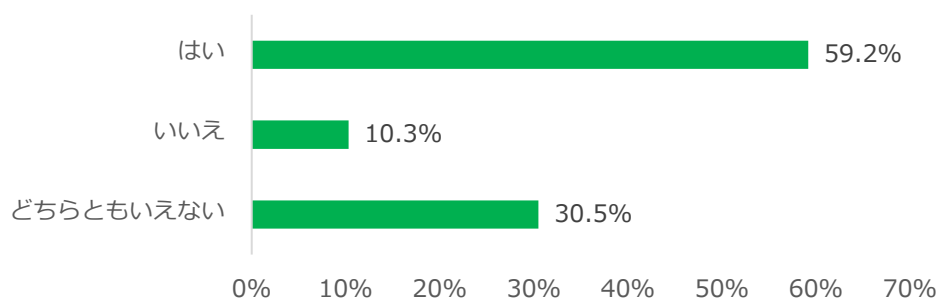
Q2:あなたは成人として認められたいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

	n	はい	いいえ	どちらともいえない
総数	786	465	81	240
(%)	100.0%	59.2%	10.3%	30.5%



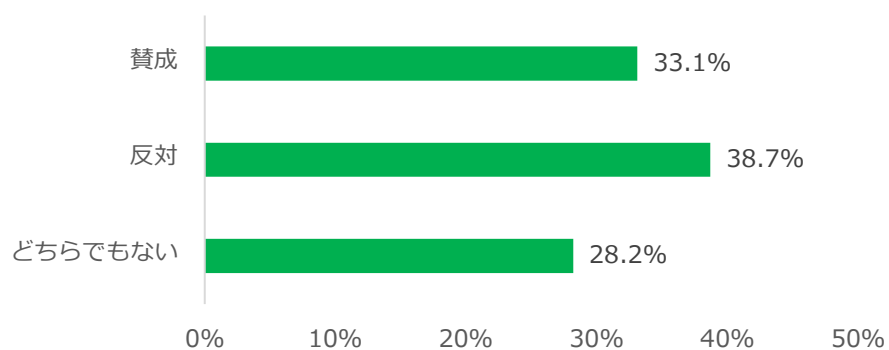
Q3:「成年年齢を18歳に引き下げる」ことが検討されていることを知っていましたか。

	n	議論・内容とも知っていた	議論は知っていたが内容は知らなかった	全く知らなかった
総数	786	338	313	135
(%)	100.0%	43.0%	39.8%	17.2%



Q4:あなたは、成年年齢が18歳に引き下げられることに賛成ですか？

	n	賛成	反対	どちらでもない
総数	786	260	304	222
(%)	100.0%	33.1%	38.7%	28.2%



1) 賛成の理由に最も近いものを以下の中から選択してください

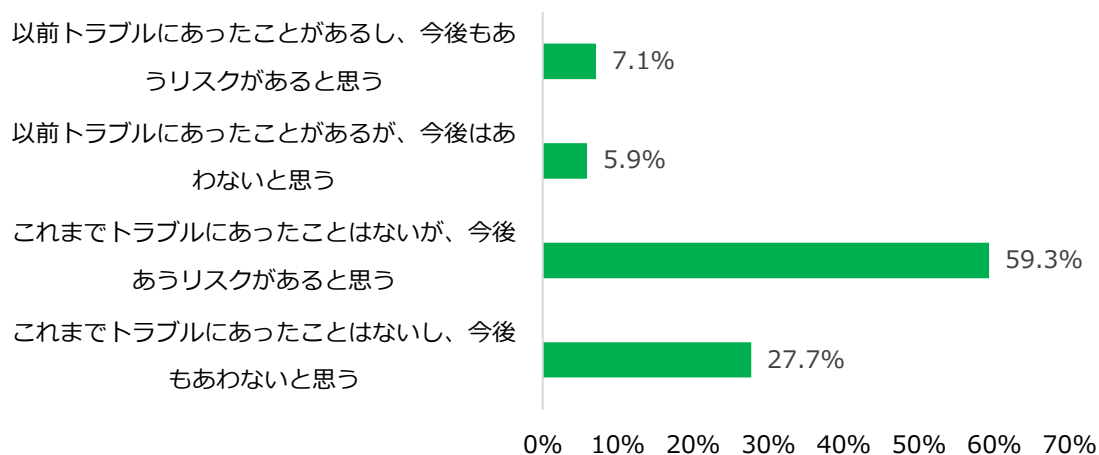
	n	自分で判断できる力があるから	大人として認められたいから	今より自由になりそうだから	親からの干渉を受けずにすむから	なんとなく	その他
総数	260	119	37	39	18	18	29
(%)	100.0%	45.8%	14.2%	15.0%	6.9%	6.9%	11.2%

2) 反対の理由に最も近いものを以下の中から選択してください

	n	自分で判断できない力がない	大人として認められる自信がないから	今も不自由を感じていないから	親の保護がなくなると不安だから	なんとなく	その他
総数	526	211	98	58	40	63	56
(%)	100.0%	40.1%	18.6%	11.0%	7.6%	12.0%	10.6%

Q5:あなたは、これまでに消費者トラブルにあったことがありますか。また、今後トラブルにあうリスクがあると思いますか

	n	これまでトラブルにあったことはないし、今後もあわないと思う	これまでトラブルにあったことはないが、今後あうリスクがあると思う	以前トラブルにあったことがあるが、今後はあわないと思う	以前トラブルにあったことがあるし、今後もあうリスクがあると思う
総数	786	218	466	46	56
(%)	100.0%	27.7%	59.3%	5.9%	7.1%

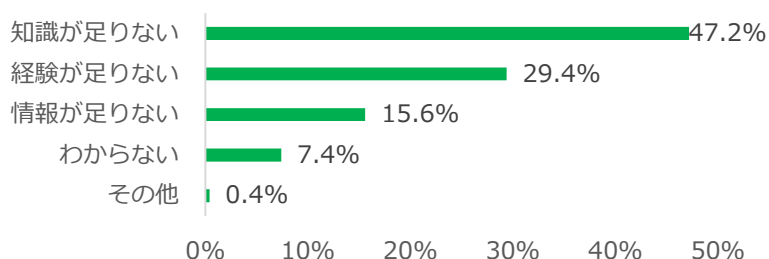


Q6 : 20 歳になると被害が増加するという国民生活センターの統計があります。

(※以下資料参照) 成年となるタイミングを狙い、契約を締結させる悪質な事業者によるトラブルが増えるといわれています。

こうして若年層が消費者被害にあう原因はなんだと思いますか。以下から最もあてはまるものを選んでください。

	n	知識が足りない	経験が足りない	情報が足りない	わからない	その他
総数	786	371	231	123	58	3
(%)	100.0%	47.2%	29.4%	15.6%	7.4%	0.4%



Q7 : では、若年層の消費者被害を減らすために、どのような方法が効果的だと思いますか。以下から最もあてはまるものを選んでください。

